

進捗状況の概要（1ページ以内）

学内の実施体制については、学長のリーダーシップのもと、本事業推進のための全学的組織として比治山大学・比治山大学短期大学部合同の「質的転換加速化本部」（本部長：学長）を置き、重要事項を審議している。この本部のもとに、中核的な推進組織として「APワーキンググループ」を置き、教学委員会等と連携しながら全学的に組織的かつ効率的に事業を推進している。さらにその下部組織として「APアクティブ・ラーニング／可視化部会」「LMS運用部会」「AP評価指標部会」を設け、学内の各委員会やセンターと連携し活動するとともに、「アクティブ・ラーニング推進室」を設置し、日常的なアクティブ・ラーニング実践を支援する拠点としている。また「高等教育研究所」による自己点検評価、「AP外部評価委員会」による外部評価を行っている。

中心となる取組については、平成29年度を発展的運用段階と位置付けて「比治山型アクティブ・ラーニング」を実践している。「比治山型アクティブ・ラーニング」とは、「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」という建学の精神・理念をもとに導き出した「4×3の比治山力」（汎用的能力）の育成を実践目標として、学生の学ぶ意欲を引き出すため、体験や参加によって主体的に考えるきっかけをつくる授業展開であり、学生自身による主体的・能動的で対話的な学修を通して「深い学び（ディープ・ラーニング）」へと導くものと定義している。「4×3の比治山力」とは、学修に役立つスキルであると同時に社会に出てからも必要とされる汎用的能力を、4つのキーコンピテンシー（自立・想像・共生・創造）ごとに3つのスキルで表したものである。また、「学修成果の可視化」の取組として、学生情報システム「Hi!way（ハイウェイ）」に加えたe-ポートフォリオシステム「Hi!step（ハイステップ）」「Hi!check（ハイチェック）」機能を利用して、学生自身による「目標設定 ⇒ 振り返り ⇒ 目標設定」を基本プロセスとした学修活動のPDCAサイクルの確立を図っている。

取組の成果については、全教員を「コア・アクティブ・ラーニング科目」の担当者とし、生涯にわたって自ら学び続ける人材を育成するというねらいを全学的に共有しつつ、「アクティブ・ラーニング実践事例集」の配付を始めとした授業担当者自身の意識向上を図る日常的なFD・SD活動を行うことで、「比治山型アクティブ・ラーニング」を導入する教員が大学・短期大学部ともに100%となった。学生の授業外学修時間も徐々に増加している。また、e-ポートフォリオシステム「Hi!step」「Hi!check」機能の利活用によって、定期的に自身の学修活動を振り返ることで、学修の到達度と次に取り組むべき課題を認識し、生涯にわたって学び続ける姿勢を身に付けさせるシステムを整えることができた。学生の自己評価・卒業生の就職した企業等からの評価の双方において、「4×3の比治山力」のうち特に「コミュニケーション力」「チームワーク力」が高まっているという結果が出るなど、本学学生の強みを分析するための準備が整いつつある。平成29年度には、卒業時の学修の成果を示す「比治山型ディプロマ・サプリメント」を構築した。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組については、既に構築している学内の各委員会やセンター・事務局との連携を図る体制を継続しつつ、学外組織（広島市教育委員会・公立小中学校・海外提携大学等）との連携も引き続き行う。補助期間終了までは、「質的転換加速化本部」のもと「APワーキンググループ」が主体となって事業を展開するが、終了後は「アクティブ・ラーニング推進室」、「学習サポートセンター」、「高等教育研究所」、さらにラーニング・コモンズの管理運営を統合して、教育体制のPDCAを円滑にする「教育開発センター（仮称）」の設置を検討している。現在雇用しているアクティブ・ラーニング専従のコーディネーターと、授業コンテンツや授業録画等の作成・編集業務にあたる専従スタッフのうち1名を継続採用する計画である。この組織が中心となって、現在行っているFD・SDを継続実施し、さらなる授業改善を推進する。

学内外への波及効果については、APセミナーの開催、他大学フォーラム・セミナーでの発表・講演、高等学校等への講師派遣、実践事例集の作成と公開、大学HP等による情報発信を行っている。